

NHK連続テレビ小説 「おかえりモネ」



登米市で 撮影開始

本市が舞台の1つとなる2021年春から放送予定のNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」のロケ現地取材会は9月30日、市教育資料館で開かれ、ヒロイン・永浦百音を演じる、女優の清原果耶さん(18)と制作統括の吉永証プロデューサーが撮影について語りました。

まちづくり推進部観光シティプロモーション課(観光シティプロモーション係)
0220(23)7331

▲市教育資料館で開かれた取材会に臨んだ清原さん



台に選んだ」と説明しました。
人の心を温め、宮城を好きになってもらえるドラマに

連続テレビ小説104作品目となる「おかえりモネ」は、今を生きる全ての人に捧げたい、現代ドラマ。本市と気仙沼市、東京都が舞台となり、「海の町」気仙沼に生まれ育ち、「森の町」登米で青春を送るヒロインが、氣象予報という天気にとことん向き合う仕事を通じて、人々に幸せな未来を届けてゆく、希望の物語です。

克蘭クインは登米市から

撮影は9月28日に登米市で始まり、11月中旬まで登米と気仙沼で実施される予定です。制作統括の吉永さんは登米といえば、教育資料館。何度となく伺っており、ドラマでも描ければと思っています。木造の建物で、そこが登米市の魅力。農業も盛んですが、森林も大切にしているところですので、木を大事にしている登米の表現として、教育資料館も紹介できた」と語りました。

来年3月で東日本大震災から10年。「そのあとの連続テレビ小説というところで、いろいろな場所を訪ねて、取材するうちに被災地の宮城県を舞

清原さんは「撮影が始まって今日(9月30日)で3日目。作品やモネの魅力を少しでもお伝えできればと思って、この場に立っています。連続テレビ小説『朝が来た』で役者デビューしたので、2021年放送の『おかえりモネ』でヒロインを務めさせていただけることにご縁を感じますし、頑張らない」と意欲的に話しました。

「私自身は森に行く機会はめったになかったので、ロケの下見や撮影で森を訪れてみて、自然が与えてくれる穏やかさをすごく感じました。エキストラの登米の人たちにもお会いして、制作にすごく協力的でうれしいと思いますか、ありがたいです」と登米での撮影について話しました。また、「教育資料館」前の通学路が雰囲気があってすごく好きです。時間ができたら、お散歩してみたい」と続けました。

以前、一度下見で登米に来たこと

があるという清原さん。「スタッフの皆さんに地元のごはん屋さん连接到行ってもらい、そこで食べたお米がものすごくおいしくて。みんなで感動しながら食べました。撮影中にまた伺いたいと思っています」と笑顔を見せました。

最後に「方言は難しいです。100点ではないかもしれませんが、温かく見守っていただけましたら、ドラマを見てくださった人の心を温めたり、宮城を好きになってもらえるように頑張って撮影しようと思っています」と決意を新たにしました。

ヒロインを取り巻く登場人物

- 気仙沼の家族／百音の父・永浦耕治＝内野聖陽さん、母・垂哉子＝鈴木京香さん、妹・未知＝蒔田彩珠さん、祖父・龍己＝藤竜也さん、語りと祖母・雅代＝竹下景子さん
- 登米で出会う人々／豪快な登米の「姫」・新田サヤカ＝夏木マリさん、百音と共に成長していく若手医師・菅波光太郎＝坂口健太郎さん、森林組合のユニーク課長・佐々木翔洋＝浜野謙太さん、森林組合のご意見番・川久保博史＝でんでんさん、百音を氣象予報の世界に導く氣象キャスター・朝岡寛＝西島秀俊さん
- 百音の同級生たち／才能あふれる若き漁師・及川亮＝永瀬廉さん、明るくおしゃべりな幼なじみ・野村明日美＝恒松祐里さん、伝統ある寺の息子・後藤三生＝前田航基さん、故郷を愛するしっかり者・早坂悠人＝高田彪我さん、かつて天才漁師と言われた男・及川新次＝浅野忠信さん



▲制作統括の吉永さん